

2019年6月11日

宮交ホールディングス株式会社
代表取締役社長 菊池克頼

2018年度 業績に関するお知らせ

当期におけるわが国の経済は、企業収益の改善が続くなか、雇用・所得環境も改善するなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような経済環境のもと、宮交グループでは、「2018年度～2020年度3ヶ年経営計画」を策定し、確実な成長と将来への基盤整備を進めるため、事業分野ごとに戦略的投資を行い、新規事業にも積極的に取り組んでまいりました。

当期の主な取り組みとして、宮崎交通では、延岡駅再開発に伴うグループ事業所の再配置と保有不動産の有効活用を行いました。また、第三の交通手段としてシェアサイクル事業を開始いたしました。宮交タクシーでは、お客様に好評いただいている「JPN TAXI (ジャパンタクシー)」を追加配備し、サービスの向上に努めてまいりました。宮崎観光ホテルでは、耐震工事を進めると共に西館客室の改装やレストラン「一木一草」のリニューアルを実施いたしました。また、ホテル運営のノウハウを活かし、新たに「エンシティホテル延岡」の運営を受託いたしました。青島リゾートでは、リブランド効果に加え積極的な営業活動により過去最高の宿泊者数を更新いたしました。宮交ショップアンドレストランでは、青島・日南地区の施設において、レストラン・物販ともに好調に推移いたしました。えびの高原エリアの施設においては、新燃岳や硫黄山の火山活動により甚大な影響を受けその対応に努めてまいりました。宮崎ビルサービスでは、新規物件の獲得と既存物件の契約見直しを並行して実施すると共に、品質とサービスの向上に努めてまいりました。

そのほかの取り組みとして、訪日外国人観光客への対応に加え、あらゆるプロスポーツイベントや音楽イベントなどにかかわる輸送・宿泊・物販など、宮交グループの総合力を活かして収益の拡大に努めてまいりました。

しかしながら、えびの地区の火山活動やホテル耐震工事による減収に加え、燃料費の高騰による経費の増加により収支に大きな影響がでました。

以上の結果、当期の連結売上高は178億72百万円（前期比98.1%）、連結営業利益は7億37百万円（前期比94.6%）、法人税等を差し引いた親会社株主に帰属する当期純利益は7億50百万円（前期比160.1%）となりました。

1. 営業成績の状況
(1) グループ業績 (連結ベース)

(単位：百万円)

【連結グループ業績】	当期実績	前期実績	前期比較	前期比 (%)
営業収入	17,872	18,224	△351	98.1
営業利益	737	779	△41	94.6
経常利益	614	643	△28	95.5
親会社株主に帰属 する当期純利益	750	468	281	160.1
償却前営業利益	1,659	1,724	△64	96.3

注1) 数値については、連結ベースでございます。

注2) 連結子法人は次の7社でございます。

 宮崎交通(株)、宮交タクシー(株)、(株)宮崎観光ホテル、青島リゾート(株)、
 宮交ショップアンドレストラン(株)、宮崎ビルサービス(株)、宮交都市クリエイト(株)

注3) 持分法適用法人は、次の2社でございます。

宮崎空港ビル(株)、宮崎パブリックゴルフ(株)

注4) 上記数値は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(2) 事業部門別業績 (連結ベース)

(単位：百万円)

事業部門		営業収入	前期比較	前期比 (%)	営業利益	前期比較
宮崎交通(株)	バス事業	5,465	37	100.7	254	97
	旅行事業	598	△35	94.4	△20	△16
	航空事業	930	34	103.9	288	22
	保険事業	154	△1	98.9	53	△8
	こどものくに事業	41	1	104.1	△28	2
	熱源センター事業	209	△18	91.7	7	△13
	不動産事業	415	86	126.4	130	△6
	本社	54	4	109.1	0	0
小計	7,869	109	101.4	685	77	
宮交タクシー(株)		2,011	28	101.4	33	△38
(株)宮崎観光ホテル		3,212	△252	92.7	54	△70
青島リゾート(株)		1,602	37	102.4	88	25
宮交ショップアンドレストラン(株)		2,937	△291	91.0	△107	△41
宮崎ビルサービス(株)		1,195	16	101.4	8	4
宮交ホールディングス(株)		487	△302	61.7	125	△299
連結消去		△1,441	306	—	△151	300
連結売上高合計		17,872	△351	98.1	737	△41

注1) 上記数値は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. 事業部門別の概況

① 宮崎交通㈱ バス事業

一般路線バスでは、観光施設を結ぶ周遊バスの運行、温泉施設とタイアップした企画乗車券の発行、イベント時や移動需要が増加する時期における臨時バスの運行など、利用者の利便に努めました。また、客貨混載路線は継続維持し、県産木材を利用したバス停整備など環境改善にも取り組みました。

燃料費の高騰などの影響もありましたが、上記の営業施策と併せて、運行便数見直しによる効率化を実施し、乗車人員は、9,612 千人(前期比 102.0%)、営業収入 36 億 79 百万円(同 103.5%)、営業利益 58 百万円となりました。

高速バスでは、東九州自動車道を運行する宮崎～延岡・大分の各路線の再編、南九州 3 県の周遊乗車券の販売、さらに車内の Wi-Fi 環境整備などお客様の利便・サービス向上に努めました。しかし前期は JR 日豊線不通に伴う代替運送により大分線が一時的に増加していたため、乗車人員は、334 千人(同 97.4%)、営業収入 10 億 68 百万円(同 100.3%)、営業利益 1 億 5 百万円(同 86.0%)となりました。

7 月に運用を開始したシェアサイクル事業は、当初 14 か所のポート(駐輪場所)を 42 か所(2019 年 3 月末日現在)まで増設し、第三の交通手段として路線バスとの相互補完を図り、お客様の利便性向上に努めております。

貸切バスでは、MICE、スポーツ・音楽イベントなどの営業を積極的に行いましたが、運転士不足により高需要期に貸切バスの運行が十分にできない状況でした。さらに福岡など長距離路線のツーマン運行の増加により、運行コストが上昇いたしました。結果として運行回数は 7,464 回(同 87.0%)、営業収入 6 億 18 百万(同 87.0%)、営業利益 85 百万(同 57.4%)となりました。

広告宣伝では、主力商品のラッピングバス 新規 28 台を含む 72 台を獲得いたしました。バス広告の知名度向上とバスへの関心を高めるため、小学生対象の第 10 回バスデザインコンテストを実施いたしました。また、宮崎神宮大祭では、昨年引き続きシャンシャン馬の運営を受託いたしました。営業収入 98 百万円(同 101.9%)営業利益 15 百万円(同 100.1%)となりました。

バス事業全体では、売上高 54 億 65 百万円(同 100.7%)、営業利益 2 億 54 百万円(同 162.4%)と、増収増益になりました。

② 宮崎交通㈱ 旅行事業

国内旅行では、団体旅行はほぼ前期並みに推移したものの、主催旅行は厳しい価格競争により前期を下回る実績となりました。海外旅行では、団体・主催旅行とも宮崎発着の国際定期路線を中心に好調に推移いたしました。その他収入では、個人客のインターネットによる旅行手配が進み、前期を下回る実績となりました。一方、費用においては、広告宣伝費を中心に削減を図りましたが、売上高の落ち込みを補うには至りませんでした。

旅行事業では、売上高 5 億 98 百万円(同 94.4%)、営業損失 20 百万円になりました。

③ 宮崎交通㈱ 航空事業

航空事業取扱旅客数は、全日空 1,081 千人(前期比 91.2%)、その他 4 社(ソラシドエア、オリエンタルエアブリッジ、ピーチ・アビエーション、香港航空)合計 971 千人(同 112.2%)、総合計 2,052 千人(同 100.1%)となりました。運航便数については片道ベースで全日空 11,225 便(同 84.7%)、その他 4 社合計 10,016 便(同 127.0%)、総合計 21,241 便(同 100.5%)となりました。

10 月下旬から香港航空が運休となりましたが、アジアナ航空が 12 月～3 月に週 2 便増便したことに加え、作業安全・接客・定時運航など品質の維持向上にも努めたことにより、前期以上の収入

を確保することができました。

航空事業では、売上高 9 億 30 百万円(同 103.9%)、営業利益 2 億 88 百万円(同 108.5%)と、増収増益になりました。

④ 宮崎交通㈱ 保険事業

生命保険では、顧客への個別訪問やDM活用により、がん保険新商品を積極的に販売したため、新規契約件数が前期を上回りましたが、顧客の高齢化に伴い既存契約件数が減少し、手数料収入は前期を下回りました。

損害保険では、自動車保険のグループ社員向け販売強化や既存顧客への積極的な特約付保により個人向け商品が前期を上回り好調に推移いたしました。

一方、経費については、お客様サポート体制強化による人員増により経費が増加し、前期を下回る結果となりました。

保険事業では、売上高 1 億 54 百万円(同 98.9%)、営業利益 53 百万円(同 86.6%)と、減収減益になりました。

⑤ 宮崎交通㈱ こどものくに事業

園内広場の活用として、スケッチ大会、チャリティーウォーク、青島国際ビール祭りなどのイベントに加え、新たに「きゅうでん Play forest2018」や大型野外ライブ「FREEDOM」を誘致開催いたしました。また「青島ハンモック」や「シー・ブルー」の新テナントも誘致し、園内の活性化に努めてまいりました。園内併設の「宮崎市青島パークゴルフ場」は、初心者向け講習によりパークゴルフの普及に努めると共に、企業・団体による大会、さらに韓国訪日団との国際交流大会も開催し、来場客数は 32 千人(前期比 106%)となりました。

こどものくに事業では、売上高 41 百万円(同 104.1%)、営業損失 28 百万円になりました。

⑥ 宮崎交通㈱ 熱源センター事業

熱供給業務では、外気温が年間を通じ前年並みでしたが、供給先の省エネ対策(空調機停止、照明LED化工事など)により前期を下回りました。ビル管理業務では新規契約はありませんでしたが、契約が複数年に渡る既存契約により安定した収入を確保いたしました。修繕請負業務では、計画的な設備改修を受注しておりますが、大型店舗リニューアル工事の遅れにより、当期は減収となりました。経費については、機器の省エネ運転によりコスト削減に努めておりますが、燃料単価の上昇をカバーするには至りませんでした。さらに人材育成費の増加により、経費増となりました。

熱源センター事業では、売上高 2 億 9 百万円(同 91.7%)、営業利益 7 百万円(同 35.9%)と、減収減益になりました。

⑦ 宮崎交通㈱ 不動産事業

保有不動産の有効活用として、延岡駅前開発についてはグループ事業所を再配置し、旧塩浜工場跡地や旧駅前駐車場用地を賃貸し、4 月の延岡支店の移転により一連の開発が終了いたしました。また、宮崎駅西口開発については、共同開発事業者と開発計画を検討し、10 月に開発概要を発表いたしました。宮崎駅を拠点とした新たなにぎわいづくりと同地域の活性化に向け、地域の皆様と連携して 2020 年秋の開業を目指してまいります。

新規フランチャイズ事業の「ファーストキッチン・ウェンディーズ」は、認知度向上のためラッピングバスや各種媒体の広告を実施すると共に、季節商品前売券の集中販売などに取り組んでまいりま

宮交グループ

した。しかしながら、売上高に対する原価率が高く、期待した利益を確保することができませんでした。

不動産事業では、売上高 4 億 15 百万円(同 126.4%)、営業利益 1 億 30 百万円(同 95.5%)と、増収減益になりました。

⑧ 宮交タクシー(株)

タクシー事業においては、日本青年会議所(JC)や日本商工会議所青年部(YEG)などの全国大会、ゴルフトーナメントやプロ野球キャンプなどのスポーツイベント、ならびに宮崎国際音楽祭などの芸術イベントなど、タクシー輸送を積極的に受注し増収に努めました。また、日本ご当地タクシー協会へ参画し、「チキン南蛮タクシー」のサービスを開始するなどPRにも努めました。

貸切バス事業においては、需給調整による車両の再配置や乗務員の養成などを行いました。請負事業においては、今期より日向市のコミュニティバスである「南部ぷらっとバス」の運行を新たに開始いたしました。

このような営業努力の結果、タクシー事業ならびに貸切バス事業についても輸送回数、運送収入ともに前期を上回りましたが、人件費の増加に加え燃料費の高騰によるコスト増で営業利益は前期を下回る結果となりました。

宮交タクシーでは、売上高 20 億 11 百万円(同 101.4%)、営業利益 33 百万円(同 46.8%)と、増収減益になりました。

⑨ (株)宮崎観光ホテル

8 月に西館耐震工事の第二期工事を完了いたしました。宿泊部門では、工事に伴う客室クローズ(117 室)により、宿泊者数・収入ともに前期を下回りました。宴会部門においても、上記工事に伴う西館バンケットホールの受注制限により、前期を大きく下回る結果となりました。婚礼部門では、昨年リニューアルを行った「はな花」の受注が好調で、前期を大きく上回りました。レストラン部門では、工事期間中の宿泊者減少により利用が低下し、前期を下回りました。

「エムズホテルクレール宮崎」は契約の終了に伴い、9 月をもって営業を終了いたしました。また、4 月より延岡市において「エンシティホテル延岡」の運営を受託いたしました。

経費については、人件費(配膳費)や営繕費の抑制、水道光熱費のコントロールなどを行い、コストの削減に努めました。

宮崎観光ホテル全体では、売上高 32 億 12 百万円(同 92.7%)、営業利益 54 百万円(同 43.3%)と、減収減益になりました。

⑩ 青島リゾート(株)(ANA ホリデイ・イン リゾート 宮崎)

昨年同様、大手旅行会社および国内団体を中心に営業を実施すると共にホームページのリニューアルやレストランシステムの導入によりWEBでの集客に努めました。またサービス面においては、客室に無料スマートフォン「ハンディ」を設置し、アクティビティメニューを増やすなどサービス面を充実させ、魅力ある滞在型リゾートホテルとしてお客様の満足向上に努めてまいりました。さらに隣接する「こどものくに」や地元との連携により青島地区全体の底上げを行い、年間宿泊者数・年間客室稼働率ともに過去最高の実績を上げることができました。経費については、プールの季節営業化に加え、入札による調達価額の低減など、営業費用の削減にも努めてまいりました。

青島リゾートでは、売上高 16 億 2 百万円(同 102.4%)、営業利益 88 百万円(同 140.8%)と、増収増益になりました。

⑪ 宮交ショップアンドレストラン㈱

新燃岳、硫黄山の火山活動により、4月に「えびの高原荘」「足湯の駅えびの高原」の2施設は、全従業員の避難、施設閉鎖など甚大な影響を受けました。また、県道1号線の通行止めにより、周辺施設「白鳥温泉上湯下湯」「花の駅生駒高原」の来客数も大幅に減少いたしました。

一方で当社旗艦店である「青島屋」は、受入環境を整えた結果83,941人(110.6%)と国内外の団体客を伸ばし、堅調に推移いたしました。

経費については火山活動の影響を受けた施設に限らず、全施設において業務の見直しを行い、コスト削減に努めてまいりましたが、原材料価格及びエネルギー価格の高騰により、削減効果が限定的となりました。

宮交ショップアンドレストランでは、売上高29億37百万円(同91.0%)、営業損失1億7百万円になりました。

⑫ 宮崎ビルサービス㈱

長期間据え置きとしていた契約単価の見直しに着手すると共に、積極的な営業活動により指定管理者としての新規施設を受注し、売上は堅調に推移いたしました。

経費については、最低賃金上昇による人件費の増、車両や機材の老朽化による修繕費用の増加はありましたが、派遣費用・外注費用を抑制しコスト削減に努めました。

宮崎ビルサービスでは、売上高11億95百万円(同101.4%)、営業利益8百万円(同195.0%)と、増収増益になりました。

3. 有利子負債の圧縮状況

2018年3月31日残高	13,660百万円
2019年3月31日現在残高	13,694百万円
差引	34百万円

4. 2019年度の取り組みと計画について

① 宮崎交通㈱ バス事業

バス事業として、運転士をはじめとする人材確保は最優先課題であり、採用者数の増や定着率向上に向け積極的な人事施策に取り組みます。また競合他社との差別化に向け、お客様の声を活かした接客・サービスレベルの向上に努めてまいります。

一般路線バスでは、人口減少により利用者数が低減するなか、恒常的に赤字で改善が見込まれない路線を中心に、将来の路線のあり方について行政機関と協議を継続してまいります。また、定時性向上に向けて所要時間の適正化を図ってまいります。

高速バスでは、需要に応じた運賃や学割の設定など収入の最大化を図る施策を継続して実施し、バス事業の収益の柱としてさらなる成長を目指します。

貸切バスでは、サービス品質や安全性の向上にむけて引き続き改善に努めてまいります。また、車両と運転士の稼働向上により、収益の向上を図ってまいります。定期観光バスでは、訪日外国人観光客の増加に対応するため、多言語化ガイドシステムを導入し、さらなるサービスの向上に努めてまいります。

広告宣伝では、営業に関する業務を広告代理店へ移管し、販売チャネルの増加によりさらなる販路拡大を行い、ラッピングバスの新規獲得に努めてまいります。

② 宮崎交通㈱ 旅行事業

国内旅行では、企業を中心とした団体旅行の営業を強化し、主催旅行はホームページの活用により、お客様への商品告知を早めると共にWEB販売の強化を図ってまいります。また登山ツアーなど集客力のある既存のテーマ旅行を継続しつつ、新たなテーマ旅行を開発してまいります。

海外旅行では、個人旅行・団体旅行ともに宮崎空港国際定期便を活用し、顧客ニーズに沿った商品展開を行うと共に、欧州などの長期周遊企画も造成してまいります。

また、新規顧客の獲得や囲い込みに繋げるため、旅行積立制度「宮交また旅友の会」会員の増強に努めてまいります。

③ 宮崎交通㈱ 航空事業

航空事業では、品質維持のため人材確保と定着率向上に注力してまいります。また従業員のマルチスキル化により、生産性の向上を図ると共に安全性・定時性・利便性などのサービス品質の向上に努め、引き続き安全で効率的な運営に努めてまいります。

④ 宮崎交通㈱ 保険事業

保険事業では、顧客ニーズに幅広く応えるため、商品提案力を向上させると共に、お客様の立場に立ったサービスを提供し、安心して契約を継続していただけるよう努めてまいります。

また提携代理店とのアライアンス契約や共同募集による販売チャネルを拡大することでさらなる営業力強化を図り、安心・信頼される代理店を目指してまいります。

⑤ 宮崎交通㈱ こどものくに事業

開園 80 周年を迎えたこどものくにでは、「自然と遊ぶ自由な空間」として、園内広場のイベント誘致を積極的に進めてまいります。また、さらに魅力的な庭園とするために「ときどき花くらぶ」(市民参加グループ)の協力を得て、バラ園・椿園・寒緋桜の林を中心に園内修景活動に取り組んでまいります。パークゴルフ場では自主大会の実施や国内外の各種大会の誘致に努め、また隣接する「ANA ホリディ・イン リゾート宮崎」との連携による相乗効果で集客力を上げ、青島地区全体の活性化に貢献してまいります。

⑥ 宮崎交通㈱ 熱源センター事業

熱供給業務では、効率的な機器の運転により価格を抑え、安定したサービスを提供し顧客の期待に沿えるよう努めてまいります。さらに、グループ内外に設備更新・改修・省エネ提案を行い、将来の顧客拡大を図ってまいります。また、社員の世代交代に伴う技術継承や国家資格取得の支援など、人材の育成を推進してまいります。

⑦ 宮崎交通㈱ 不動産事業

宮崎駅西口開発は4月から工事に着工し、2020年秋の開業を目指します。また所有する不動産の有効活用をさらに進めると共に、情報収集に取り組み不動産仲介においても業績向上に努めてまいります。さらに、「ファーストキッチン・ウェンディーズ」の新規フランチャイズ事業については利益確保に向け様々な施策に取り組んでまいります。

⑧ 宮交タクシー㈱

慢性的な乗務員不足や高齢化への対策として柔軟な労務環境を整備し、ドライバーの確保を第一義に取り組んでまいります。また、接客サービスと安全性の向上に向け「ユニバーサルドライバー研修」や「観光ドライバー研修」を実施いたします。さらに、既存顧客の需要の掘り起こしと新規顧客獲得に向け営業を強化し、併せて、支援学校やコミュニティーバスなどの運行受託を拡大し安定収入の確保を図ってまいります。

⑨ ㈱宮崎観光ホテル

4月～7月にかけて、西館耐震工事第三期(最終)となる西館A棟の耐震工事および客室改装工事を実施いたします。改装期間中、西館客室(76室)、西館バンケットホール1箇所、レストラン汐彩をクローズいたしますが、細やかな受注コントロールを行い、収益の確保に努めてまいります。

宿泊は客室改装を機に販売料金の見直しを行い、改装部屋の単価アップを中心に、全体の収益向上を進めてまいります。

働き方改革の一環として、有給休暇の取得や労働時間の短縮を推進し、ワークライフバランスの実現により、ES(従業員満足)と定着率の向上に取り組んでまいります。

今後も安全を第一に、CS(顧客満足)の向上と収益力の強化に取り組んでまいります。

⑩ 青島リゾート㈱ (ANA ホリデイ・イン リゾート 宮崎)

宿泊・料飲・婚礼・レクリエーションの統合セールスを継続し、MICEおよびスポーツキャンプの誘致活動を展開してまいります。また、IHGネットワークを活用した団体・個人への販売促進に加え、インバウンド誘致活動にも取り組んでまいります。特に体験型宿泊プランを強化し、隣接する「こどものくに」での新アクティビティメニューの開発や、青島地区と連携した地域活性化により「新 AOSHIMA ブランド」の実現に向けて取り組んでまいります。

⑪ 宮交ショッピングアンドレストラン㈱

イベントリスク対策と財務の健全化のため「足湯の駅えびの高原」の事業を撤退し、2019年4月1日に同施設をえびの市への無償譲渡をいたしました。そのほかの不採算店舗に関しましては、増収策やコストのさらなる見直しを行い健全化に向け取り組んでまいります。

堅調に推移している「青島屋」、「鵜戸神宮 三ツ和荘」は、幅広くお客様の受入環境を整えるため、スマートフォンサイトの構築や店内の多言語化を実施し、さらにキャッシュレス化を進め、利用者数の拡大に努めてまいります。

⑫ 宮崎ビルサービス㈱

新規物件の獲得および不採算物件の整理により、さらなる収益性の向上に努めてまいります。また、引き続き人員不足対策として、新卒者から高齢者まで幅広い層を対象にした体験型募集など積極的な求人活動を行ってまいります。併せて働き方改革により、就労環境を整え人材の定着を図ってまいります。さらに、人材教育と品質・サービスの向上に努め、収益拡大に取り組んでまいります。

当社グループを取り巻く経営環境は、生産年齢人口の減少による人材確保の厳しさに加え、消費市場環境が大きく変化するなか消費税増税も予定されており決して楽観視できる状況ではありません。また、国際情勢についても、貿易摩擦など不安定な材料が多く依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境下、当社グループでは、「2019年度～2021年度3ヶ年経営計画」を策定いたしました。本経営計画においてこの3ヶ年を「明確な成果の追求と宮交グループの将来を築く事業基盤の確立」と位置づけており、「時代の変化に合わせた将来への土台づくり」、「利益率向上による財務体質の強化」、「安心と信頼の確立」の3本の戦略を柱として、事業基盤の確立に取り組んでまいります。

2019年度におけるグループの主な取り組みとして、宮崎観光ホテルでは、最終耐震工事に合わせ客室の改装を行い、さらなるサービスの向上と集客に努めてまいります。不動産事業では、2020年秋の開業を目指し宮崎駅西口の開発を進めてまいります。また、7月から8月にかけて全国高校総体、9月は2020年東京オリンピック選考大会である「ISAワールドサーフィンゲームス」など大規模なイベントが開催されます。このビジネスチャンスを逃すことのないよう収益の確保に努めてまいります。

なお、従業員に対しては働き方改革法の施行に併せ長時間労働の抑制、有給休暇の取得、さらに柔軟な働き方に向けた環境整備を行い、従業員満足度を高め定着率の向上を図ります。また、「宮交グループ人事戦略委員会」を発足させ、人材の確保や定着などの人事戦略についてグループを挙げて推し進めてまいります。

これからも地域の皆様のご期待にお応えできますよう、安全と安心を軸としたサービスと収益の向上に努めると共に、地域No.1の企業グループを目指し、グループ一丸となって全力で取り組んでまいります。

2020年3月期での見込みは、以下の通りです。

(単位：百万円)

【連結グループ業績】	2020年3月期 見込	2019年3月期 実績	前期比較	前期比 (%)
営業収入	18,662	17,872	789	104.5
営業利益	994	737	256	134.8
経常利益	860	614	246	140.1
親会社株主に帰属 する当期純利益	697	750	△53	92.9
償却前営業利益	1,907	1,659	247	115.0

以上